

Our Forests Our Future

独立行政法人 森林総合研究所 理事 池田 俊彌

21世紀に向けて「森林と持続可能な開発に関する世界委員会」(WCFS: World Commission on Forests and Sustainable Development)は“*Our Forests Our Future*”の中で、次のような提言をしています。



1. 地球の森林の破壊を止めること:資源、生産物、生態的機能(サービス)が極めて脅かされている
2. 世界の豊富な森林資源を貧者の生活の改善および森林に依拠する地域社会の利益に使うこと
3. まず公共の利益に重点を置き、森林の利用に関する決定に人々を参入させること
4. 森林の価格は、その生態学的・社会的価値を完全に反映した公正なものとし、有害な補助金を廃止すること
5. 持続可能な森林管理のアプローチを適用する、そうすれば森林を悪用しないで利用できる
6. 森林資本の新計測法を開発する、そうすれば状況が改善されているのか悪化しているのか知ることができる
7. 孤立状態の森林ではなく、ランドスケープ全体の利用と保護の計画を作成すること
8. 森林に関する知識のよりよい活用を図り、その知識の基盤を拡大すること
9. 研究と訓練を加速する、そうすれば持続可能な森林管理が現実的なものになる
10. 森林利用に関する統制と実施義務を改善するために大胆な政策決定を行い、新しい市民社会の活動を発展させること(以上、池田訳)

独立行政法人森林総合研究所発足に当たり、私たちが国際社会の一員として地球規模での森林及び生態系の保全に寄与しなければならないのはいうまでもありません。上述の提言ではその道筋が示されています。問題はいかにしてこれらの提言を実行していくのかにあります。私たちに課せられているのは、広範な解明研究や技術開発研究の帰結・成果をいかに地域、国、地球レベルに適合させるのかにあります。個々の研究成果がどのように使われるべきなのかを研究所としても、また研究を遂行した個人としても提示していく必要があります。

21世紀は、20世紀の「人類のエゴ」、「効率性」の反省から、「環境の修復」、「共生・調和」を求める時代といわれています。私たちの中期計画は、大筋において国際的な趨勢に合致し、かつ国内問題に対応していますが、特に森林の多面的機能、価値を科学的に評価し、持続可能な森林管理に適用する方策、及び循環型社会構築に向けた森林資源・生産物の利用方策の提言に向けた研究が求められていると思います。今後、森林総研の長所である組織的研究体制を十分に生かし、これら提言に向けた研究としての「実証研究」の取り組みをより一層推進する必要があると思います。

[巻頭言] [[リサーチトピックス](#)] [[研究解説](#)] [[シリーズ7](#)] [[シリーズ8](#)] [[おしらせ](#)]

[[所報トップページへ](#)]